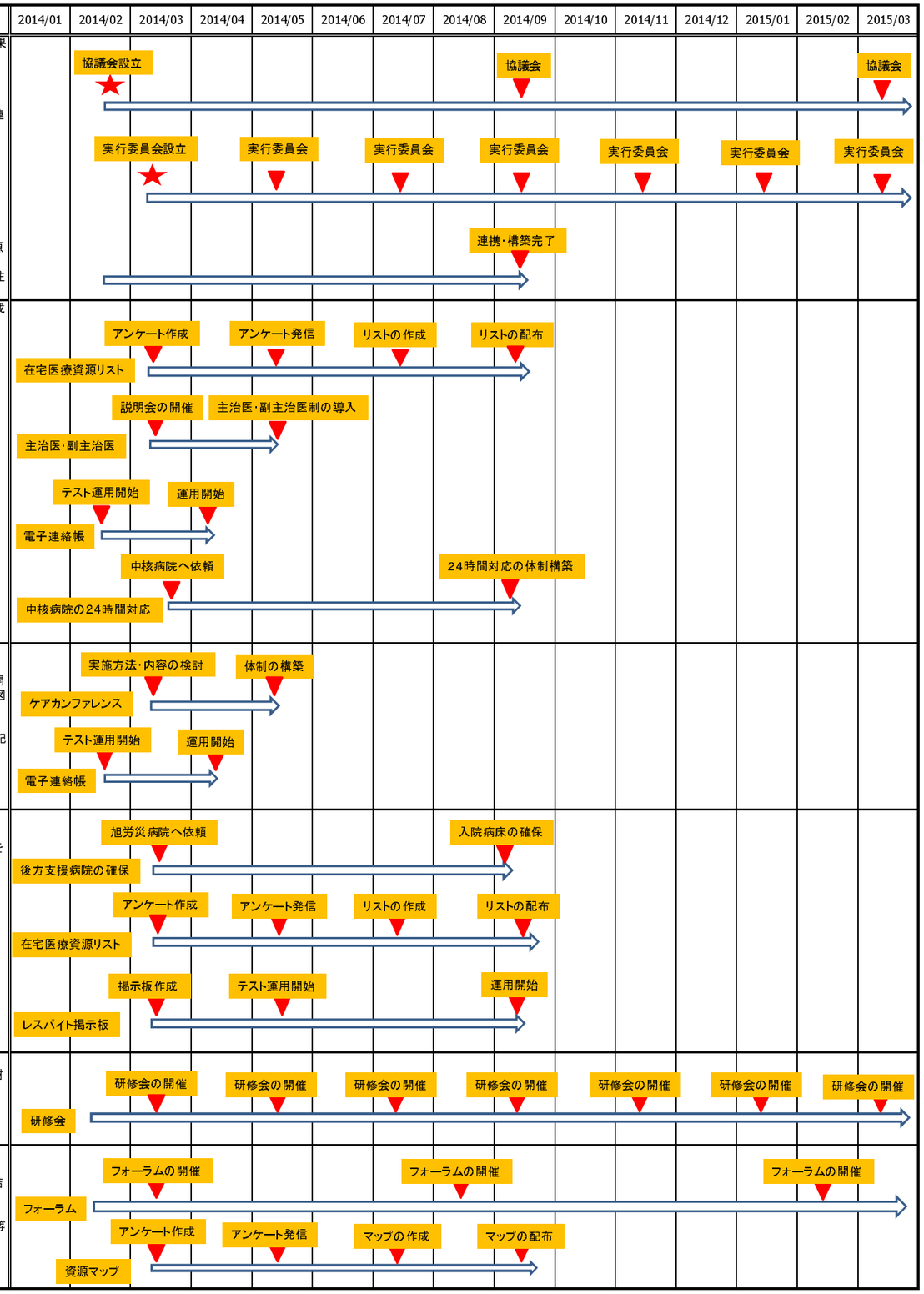
在宅医療連携拠点推進事業における事業計画（瀬戸旭医師会）

	視点	活動	事業内容	目的	具体的取り組み
A	学習と成長の視点	体制作り	瀬戸旭医療介護連携推進協議会の設立 瀬戸旭医療介護連携推進協議会実行委員会の設立	●瀬戸旭医療介護連携推進協議会（仮称）[※通称：も一やっこネットワーク]を設立し、多職種連携を行う基盤を構築する。	2カ月に1回実行委員会を開催し、その結果を半年に1回協議会を開催し協議する。会合では以下内容の検討を行う。 1)在宅医療・介護連携に関する運用方法 2)在宅患者看取りに対する多職種による連携方法 3)主治医、副主治医制の導入検討 4)瀬戸、尾張旭地区における医療・介護の地域課題 5)も一やっこネットワークを介したケアカンファレンスの内容検討 6)在宅医療に係る人材への職種別育成の検討 7)市民フォーラム・講演会、医療・福祉資源マップ（現状の医療マップの充実）やパンフレットによる在宅医療・介護に関する地域住民への普及啓発活動を展開する。
B		医療・福祉の連携	基幹病院との連携 瀬戸介護事業者連絡協議会との連携 尾張旭市介護サービス事業者連絡会との連携		
C	業務プロセスの視点1	在宅医療従事者の負担軽減の支援	在宅医療従事者の負担軽減支援	●在宅医療従事者の負担軽減支援 1)地域の医療・福祉資源の量・質の把握 2)資源の有効活用や不足資源の確保のための具体的な方策の実施 3)24時間対応の在宅医療提供体制の構築	1)アンケートによる在宅医療資源リスト作成 2)主治医・副主治医制を導入し、主治医、副主治医、訪問看護師は電子連絡帳を利用した情報連携を実現する。 3)中核病院が患者受け入れに対応できる体制を整備し、24時間対応の在宅医療提供体制を構築
D	業務プロセスの視点2	多職種連携・体制構築	多職種との連携体制の構築	●効率的で質の高い医療提供のための多職種連携 1)訪問支援の実施、多職種連携によるケアカンファレンスの開催 2)チーム医療を提供するための情報共有ツールの活用	1)ケアカンファレンス実施方法、内容を検討。 2)多職種によるケアカンファレンスを定期開催し、効率的で高品質の訪問支援提供を図る。 3)平成26年4月より、電子連絡帳を利用した多職種連携によるケアカンファレンスの記録を行う基盤構築
E	業務プロセスの視点3	入院病床の確保とレスパイトサービスの実施	入院病床の確保とレスパイトサービスの実施	●入院病床の確保及び家族の負担軽減に向けた取組み 1)在宅療養者の症状急変時における入院病床確保のための後方支援病院の確保 2)家族の介護の負担軽減に向けたレスパイトサービス等の実施	1)旭労災病院へ開放病床を3床確保の依頼 2)レスパイトサービスを実施している施設を確認し、在宅医療資源リスト作成 3)レスパイトサービスの施設の利用状況を確認できる掲示板を作成する。
F	顧客の視点1	医療・介護従事者への啓蒙普及	医療・介護従事者への啓蒙普及	●在宅医療に従事する人材育成	1）職種別人材育成方針を立案。 2)各職種別研修会を定期的に開催し、人材育成レベルの向上・平準化を図る
G	顧客の視点2	住民意識の啓発と地域力創造	住民意識の啓発と地域力創造 市民フォーラム 医療福祉資源マップ	●在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動 1)地域での在宅医療を浸透させるためのフォーラムや講演会等の開催 2)住民向けの地域の医療・福祉資源マップやパンフレット等の発行	1)協議会内で在宅医療の市民フォーラム・講演会の実施内容を検討し、3回開催する 2)協議会にてアンケートを作成し、実施。結果を基に医療・福祉マップやパンフレット等を発行し、ホームページにも掲載する 地域自治組織の協力を得ながら、回覧板等を活用し周知する（地域住民との協働）